

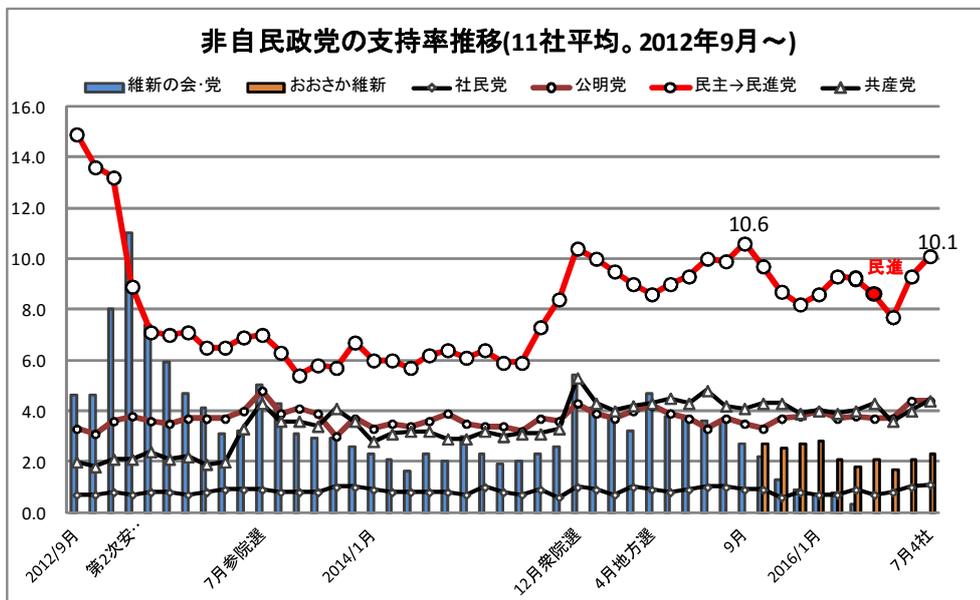
直近の世論調査から－2016. 7. 14(参院選が終わって、都知事選と憲法改正問題に)

1. 6月の内閣・政党支持率は大きな変動なく…民進党支持はやや持ち直したが

内閣支持率	政党支持率											
	支持	不支持	自民	民進	公明	共産	社民	お維新	生活	心	支持なし	
6月												
日経												
毎日6.20	42	39	31	10	4	5	1	3	1	0	34	
読売6.20	49	38	35	9	4	3	1	2	0	0	40	
朝日6.20	45	36	32	7	5	3	1	2	0	0	37	
共同6.13トレ2	47.8	43.5										
時事6.17	46.1	34.0	24.7	6.3	3.7	1.5	0.6	1.6	0.2	0.1	59.3	
NHK6.13	48	35	38.1	7.6	4.7	3.2	0.8	1.2	0.1	0.2	36.7	
JNN6.6	55.2	42.9	34.8	7.5	4.1	4.0	0.8	1.2	0.2	0.1	43.5	
ANN6.20	44.3	37.4	43.0	14.9	5.2	6.9	1.3	2.1	0.4	0.0	26.0	
FNN6.20	49.4	38.1	37.7	8.3	4.6	5.7	1.3	4.3	1.0	0.5	35.2	
NNN6.20	43.3	39.5	37.9	13.5	4.0	4.1	1.0	1.4	0.1	0.0	35.7	
平均	47.0	38.3	34.9	9.3	4.4	4.0	1.0	2.1	0.3	0.1	38.6	

①参院選前の6月調査は、日経がお休み、共同が選挙のトレンド調査に切り替えたので、内閣は10社、政党支持は9社平均で出している。

安倍内閣の支持率は、47.0%(不支持が38.3%)と。先月に比べて支持が3.0%減、不支持が3.5%増となった。政党支持率の方は、左表にあるように、自民党34.9%(先月は37.8%)と微減。民進党は9.3%(7.7%)と微増して、7月には参院選投票前の4社平均で10.1%と、やや回復気味なのかな、と見える。他は公明4.4%(3.7%)、共産4.0%(3.6%)、社民1.0%(0.8%)、お維新2.1%(1.7%)、生活0.3%(0.4%)、こころ0.1%(0.1%)、支持なし38.6%(39.0%)だった。



0.8%)、お維新 2.1%(1.7%)、生活 0.3%(0.4%)、こころ 0.1%(0.1%)、支持なし 38.6%(39.0%)だった。

2. 参院選比例…自民2011万(+1.2%)、民進1175万(+7.6%)、怒りの声は47万、支持なし65万

全国比例得票	
・自民 2011.4万(35.9% 前回34.7%)	・生活 106.7万(1.9% 1.8%)
・民主 1175.0万(21.0% 13.4%)	・こころ 73.4万(1.3%)
・公明 757.2万(13.5% 14.2%)	・改革 58.0万(1.0%)
・共産 601.6万(10.7% 9.7%)	・幸福 36.6万(0.7%)
・お維新 515.3万(9.2%)	・怒りの声 46.6万(0.8%)
・社民 153.6万(2.7% 2.4%)	・支持なし64.7万(1.2%)
参院選で与党が過半数を確保したのは	
朝日7.14	①首相政策が評価された 15 ②野党に魅力がなかったから 71
読売7.12	①経済政策評価 6 ②政治姿勢評価 8 ③政治の安定に期待 15
	④他の政党よりましだ 63

②参院選が終わってみれば、与党は過半数を超える議席を獲得し、改憲勢力は2/3議席に達した。この結果について、緊急調査(朝日、読売)では、安倍首相の政権政策・姿勢などよりは「野党の責任」をあげる声が多い。

ともかく自民党の比例票は、政党支持率とほぼ同水準の35.9%(2011万

票)を獲得した。民進党は 1175 万票で 21.0%。前回は 13.4%、713 万票だったから、比較すると「大きな前進」なのだが、その前(2010年)は 31.6%、1845 万票だったのだから「健闘・善戦した」という程度の評価になる。今回は、実質的に「第 3 極」と言われるものが機能しなかった。前回の維新 635.5 万(11.9%) + みんな 475.5 万(8.9%)がなくなった分を、おおさか維新(515 万、9.2%)が少しはカバーしたが、「民進と共産に行けない無党派層を吸収する」と壮語した“怒りの声”は 46.6 万(0.8%)と空回りに終わった。新党“支持政党なし”は「政策もなし」での訴えで 65 万も獲得したのは「ずるい」「詐欺っぽい」なんて言われている。

<b>無党派の比例投票先・全国・共同</b>
自民22.3、民進23.2、公明6.9、共産14.7、お維新11.4根社民4.4 '生活2.3、こころ1.5、改革1.8、諸派11.5
2013年は自民23.0、民主14.4、公明8.9、共産13.5、みんな15.5、維新13.3
2010年は自民16.7、民主28.8、公明7.5、共産7.1、みんな22.8、社民5.0
<b>年齢別比例投票先</b>
18-19歳 自民40.0、民進19.2、公明10.6、共産7.2、お維新7.7、社民2.8、
<b>無党派の比例投票先・全国・読売</b>
自民21、民進22、共産13
2013年は自民23、民主11、共産12、みんな15、維新14
2014年衆院選は自民22、民主19、共産16、維新24
<b>無党派の比例投票先・全国・日経</b>
自民22.3、民進23.2、共産14.7、お維新11.4、公明6.9
2013年は自民23.0、民主14.4、共産13.5、みんな15.5、維新13.3、公明8.9
2014年衆院選は自民21.1、民主20.8、共産17.7、維新21.7、公明7.4

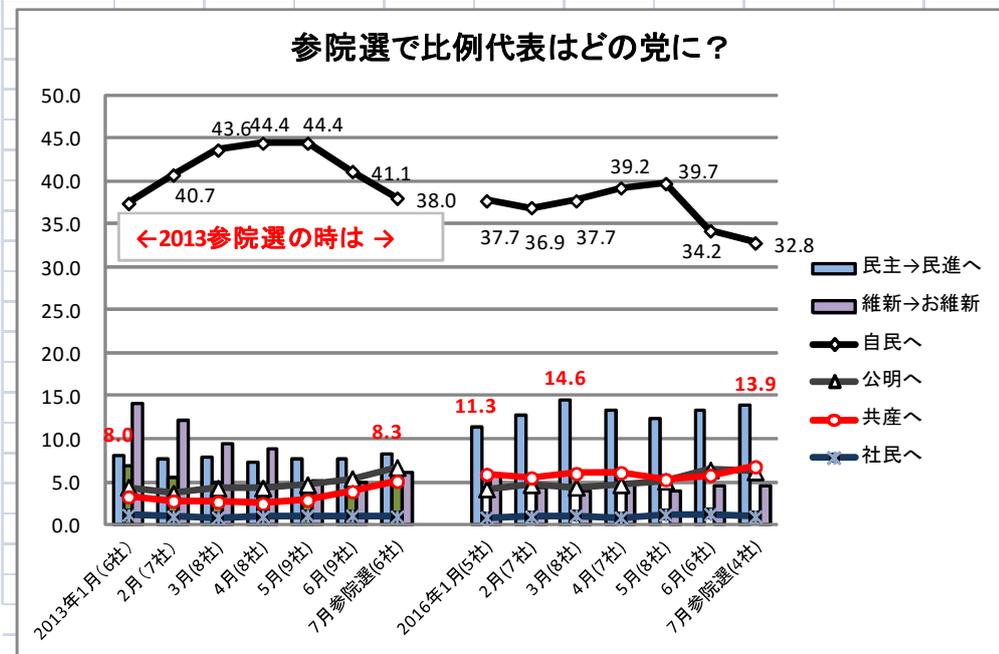
③今回は、支持政党なしの無党派層が一部投票行動に復帰したため、投票率を 54.70%(前回 52.61%。+2.09%増)に、わずかに回復させた。投票者総数は 5323 万人から 5809 万人に+486 万人増えたわけで、奇しくも民進党(旧民主党)の比例増加分 462 万人に近似したのが面白い。

比例代表を分析する上では、いつもながら無党派層がどのような投票行動に出たか見ることが最大のテーマだが、左表

参議院選挙での比例投票は ※2016年参院選前 ※黄色セルから民進										
	自民	民主・民進	公明	共産	社民	お維新	維新	生活	心	未定
1月5社平均	37.7	11.3	4.2	5.9	0.9	5.9	1.5	0.5		27.9
2月7社平均	36.9	12.7	4.7	5.5	1.0	4.3	1.5	0.7	0.1	25.8
3月8社平均	37.7	14.6	4.4	6.0	1.1	4.0	2.0	0.6	0.5	21.9
4月7社平均	39.2	13.4	4.7	6.1	0.9	4.8		0.7	0.3	18.5
5月8社平均	39.7	12.4	5.1	5.3	1.2	3.9		0.9	0.5	24.1
6月6社平均	34.2	13.4	6.4	5.8	1.3	4.6		0.9	0.3	23.4
7月4社平均	32.8	13.9	6.2	6.8	1.0	4.6		0.8	0.4	28.7

に上げたように、各紙の出口調査結果から見ても、民進党が幅広く無党派層を吸収した。

これはこれまでの毎月の世論調査からも、ある程度は予測されていたことである。「参院選で比例代表はどの政党に？」という調査では、3年前に比べて民進党が得票数を伸ばすであろうことは折り込み済みだった。民主党から民進党に衣替えした時期にかけて、新党効果が見られなかった(3月の民主+維新=16.6%が4月には13.4%に低下)こ



ことが気がかりだったが、まずはどうにかクリアしたということだろう。ちなみに 3 年前の比例代表支持(投票日直前)は 8.3%で、比例得票数が 13.4%だったが(1.61 倍)、今回は比例代表支持が 13.9%で、21.0%(1.51 倍)の比例得票だった。今後の参考のために記録しておこう。

### 3. 参院選後の都知事選挙と「憲法改正問題」

④参院選後の政局は、間近に迫った東京都知事選挙になる。告示7月14日、投開票日7月31日で施行されるが、自民党・与党系の小池百合子、増田寛也と、野党統一候補の鳥越俊太郎の実質3人の争いになるとものと思われる。

参院選での野党候補の一本化に		
	賛成	反対
6月2社平均	42.3	40.1
5月2社平均	41.6	41.8
4月2社平均	48.8	39.1
3月3社平均	46.7	33.3
2月2社平均	54.9	32.5
1月3社平均	51.3	32.1

野党共闘は続けた方が良い		
	そう思う	思わない
共同7.13	43.4	42.6

参院選で野党統一候補を立てたのは		
	良かった	良くなかった
朝日7.14	39	31

野党共闘は北海道5区補欠選挙で結実し、今回の参院選でも、与党候補と競り合い「一定の力を発揮した」と評価されている。世論調査でも、選挙が近づくとつれて「野党候補の一本化」に対する賛否は接近してきたが、なお「有効」であることには変わりないだろう。参院選後の緊急世論調査(共同、朝日)でも、野党共闘は「続けた方が良い43.4%、そう思わない42.6%」「良かった39%、良くなかった31%」と、肯定派がやや多い。

⑤安倍首相は選挙期間中は憲法改正問題に口を閉ざしていたが、終わった途端に「サア憲法改正だ」とばかりに前のめり発言を始めている。

参院選後に憲法改正手続きを進めること		
	賛成	反対
毎日6.20	36	44

憲法改正は参院選の重要な争点に		
	なると思う	思わない
NNN6.20	55.9	30.1
FNN6.20	59.9	33.8
平均	57.9	32.0

憲法改正は参院選の重要な争点に		
	なると思う	思わない
ANN7.4	51	35

参院選で憲法改正議論が深まっていると		
	思う	思わない
朝日7.4	20	62

安倍首相は改憲争点化に否定的だが		
	妥当だ	妥当でない
朝日7.4	28	52

憲法改正に賛成か		
	賛成	反対
JNN7.4	38	45
FNN6.20	43.3	45.5
ANN5.30	32	47
4月2社平均	37.6	46.2
FNN3.21	41.3	47.3

安倍首相在任中に憲法改正の考えに		
	賛成	反対
共同7.13	35.8	48.9
朝日7.14	35	43
7月2社平均	35.4	46.0
共同6.13トレ2	35.9	48.2
共同6.2トレ1	30.9	53.6
共同5.30	35.0	54.9
4月2社平均	29.6	54.8
3月6社平均	34.4	52.4
日経1.25	34	46

世論調査では先月のレポートで紹介したように、「安倍首相下での憲法改正」には反対世論が多数を占めてきたのだが、参院選での「重要な争点」になるであろうことは認識されていた。参院選で改憲発議に必要な2/3議席を獲得した政権は、この具体化に乗り出してくることが必至だ。

投票直後の出口調査(共同通信)では、道内分は憲法改正に賛成34.2%、反対52.8%と反対多数なのだが、全国平均では改憲賛成46.8%、反対47.2%と拮抗した状態になっていた。18-19歳の新有権者層も賛成46.8%・反対47.2%と拮抗している。

「安倍政権下での憲法改正」については、自民党支持層は改憲賛成が70.6%、反対20.9%と賛成派が圧倒しているが、与党の公明支持層は賛成48.5%、反対39.6%と割れている。改憲推進と言われるおおさか維新支持層でも賛成46.4%、反対48.5%と反対派がやや多い。

参院選の出口調査では		
憲法改正への賛否		
道新	賛成34.2、	反対52.8
共同全国	賛成46.8、	反対47.2
※'18-19歳賛成46.8、反対47.2		
安倍政権下での憲法改正・全国・共同		
自民支持層	賛成70.6、	反対20.8
民進支持層	賛成9.3、	反対86.0
公明支持層	賛成48.5、	反対39.6
共産支持層	賛成6.9、	反対89.4
お維新支持層	賛成46.4	反対48.5

選挙後の世論調査では、憲法改正に賛成38%、反対45%(JNN)、「安倍政権下での憲法改正」には賛成35.4%、反対46.0%(共同、朝日の2社平均)と、従来通りに反対派が賛成派に対して優位に立っている。

### 4. 北海道選挙区の構造シミュレーション(仮まとめ)の紹介

⑥次ページの図は、各社の出口調査をもとにシミュレートした参院選北海道選挙区の構造だが、当調査会の評論会でも色々と意見が続出した。最終的なまとめは別途討論することとしたので、とりあえず「仮まとめ」として紹介しておく。※まとめたものは後日、ホームページに掲載予定。

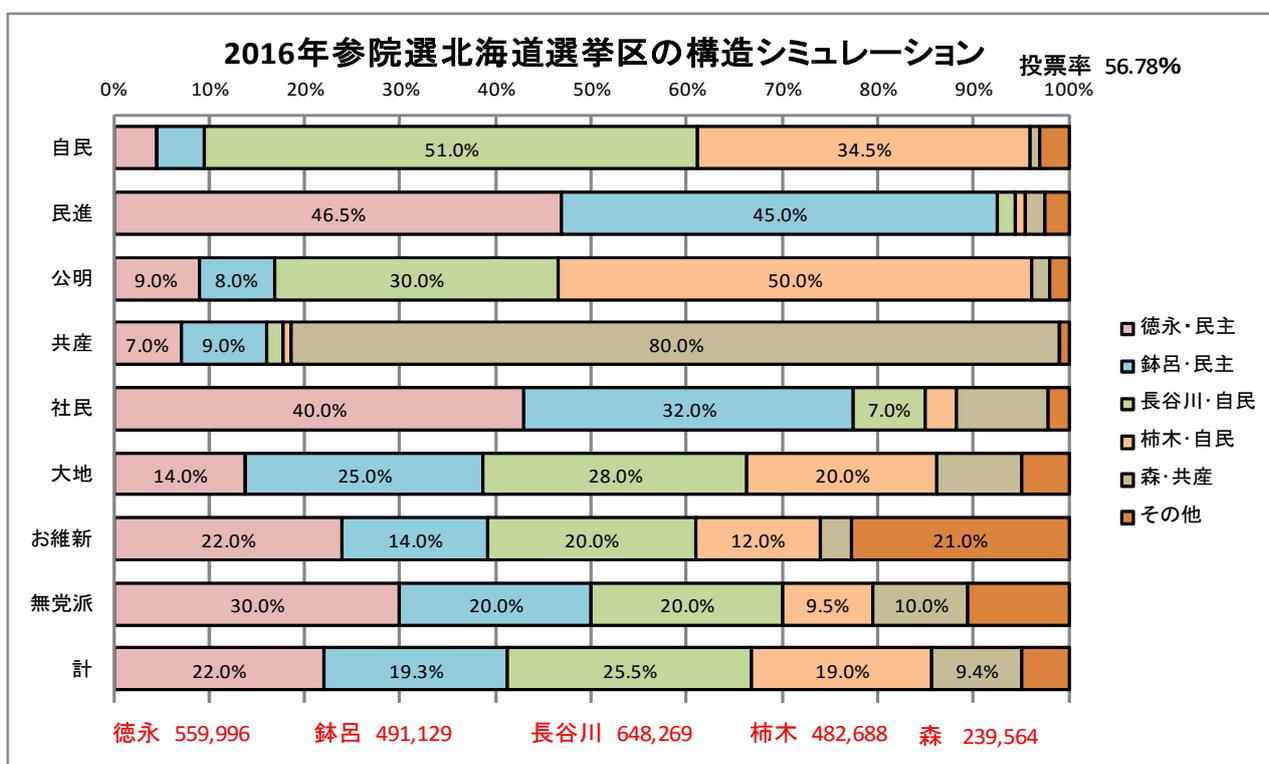
自民党 2 候補の得票数は約 113.1 万で、民進党 2 候補の 105.1 万より 8 万票あまり多かったが、共産党候補を加えると 129 万で、野党候補計が与党候補計を 16 万票余り多い結果となった。これは知事選挙など、今後の選挙などにも影響するだろう。

自民党の長谷川候補は、厚い自民党支持層の 5 割、公明の 3 割、新党大地やおおさか維新、無党派から満遍なく支持を固めて順当に当選した。

落選した柿木候補は、自民党本部が「思いっきり票寄せした」はずの公明支持層の 5 割しか獲得できなかった。「私が当選させてやる」と大見得を切った鈴木宗男の新党大地支持層は「まるで草刈り場」のように支持基盤が荒らされており、長谷川だけでなく、民進党の徳永よりも得票は少なかったのではないかと見られている。これは新党大地の組織的な問題になるのだろうから、深入りした評価は止めておこう。

民進党は「票割りが見事に成功した」形にはなったが、昔の社会党・総評時代のように労組活動などを頼りに、目標を定めて「足で固めていく票固め」は出来なくなってきている。今回の結果は、各候補者・選対などの奮闘などはもちろんあるのだが、支持層や有権者の絶妙なバランス効果にも支えられたのだと思う。

共産党の森候補は、自党支持層の 8 割を固めたが、この比率は、従来と比べても特に少な



いとは言えない。過去の選挙結果では、1998年の紙候補が94%程度を確保したのが最高で、2007年の畠山候補で75%程度、という幅がある。ただし3年前の森候補は自党支持層から90%余の支持を受け、27万2千票という結果だったから、自民・新進の4人の攻防に引き寄せられた人たちもかなりいたのだろう。※過去の参院選北海道の構造はホームページに掲載してある。

※今回は、参院選関係の世論調査を中心に紹介したが、他にもEU離脱問題や消費税10%問題などの調査も行われている。これらは別の機会に紹介することがあると思う。

☆これまでの「直近の世論調査から」シリーズ、各種選挙結果とデータなどをホームページに掲載しています。自由にご利用ください。

<http://yoronmeeting2013.web.fc2.com/>

(北海道世論調査会まとめ)